

適切な施工を行って頂くために

安全に関する注意

- 施工前にこの【安全に関する注意】をよくお読みの上正しく施工して下さい。
- 施工完了後は、各部の点検や試運転を行い異常のないことの確認をして下さい。

警 告

- 吊戸棚などの商品の施工は落下のおそれがない様、確実に施工して下さい。
- 配線・配管工事は、関連する法令・規定に従って必ず**有資格者**が行って下さい。
接続、固定が不完全な場合は、火災の原因になります。
- ステンレスのシンクや天板を扱う時は、必ず保護手袋をして下さい。切断面で怪我をするおそれがあります。

注 意

- 調理機器を設置する場合には、建築基準法や電機設備技術基準・火災予防条例に定める防火処理を施す必要があります。
- 当社に使用する材料や接着剤などはJIS、JASまたは国土交通大臣の認定を受けたF☆☆☆☆を使用しています。施工時に使用する補強材、接着剤、塗料などについてもF☆☆☆☆レベルのものをを選び下さい。
- 下地桟等にはホルムアルデヒドの放散の少ない材料を選び下さい。

吊戸棚の取り付け

- 壁面や天井の指定位置に下地桟があるか確認して下さい。
確認により補修工事が必要な時は、施工に入る前に依頼して下さい。
- 下地桟の寸法・強度・材質、それにかかわる壁面が適切であるか確認して下さい。
- 天井の回り縁などが設置に影響しないかを確認して下さい。
- 施工に入る前に、商品名・種類・色・数・寸法などに間違いがないかを確認して下さい。
- 建築壁の表面を平にして下さい。壁面に凹凸があると扉の段違いになり仕上に支障が生じます。
- レンジフード、水栓、照明器具、その他の機器については、それぞれの商品の施工説明書や注意表示を必ずご覧になり、正しい施工を行なって下さい。

取付け後の確認

- 吊戸棚が壁面に隙間なく固定されているか、確認して下さい。
- 棚板がしっかり載っているか確認して下さい。
- 繰り返し扉を開閉し確実に丁番で固定されているか確認して下さい。
- 丁番で扉の段違い、出入を調整して下さい。
- 取手、丁番などのネジのゆるみがないか確認して下さい。ネジにゆるみがある場合は、ドライバーで締め付けて下さい。

流し台、調理台、こんろ台の設置

- 床、壁面、天上の直角な交わりと水平・垂直を確認して下さい。10mm以上の誤差があると仕上げに支障が出ます。
- 壁面や天井の指定位置に下地桟があるか確認して下さい。
- 下地桟の寸法、強度、材質、それにかかわる壁面が適切か、確認して下さい。
(使用材料…合板等)
- 給水・配水管が指定された位置にあるか確認して下さい。排水トラップと配水管の接続は直管配管として下さい。
- 指定された位置に適切なガス配管設備があるか確認して下さい。
- 床の幅木、天井の回り縁などが設置に影響しないか確認して下さい。
- 床の水平が確保されているか確認して下さい。水平が確認されていない場合は、流し台・調理台の上部に段差が生じたり、キャビネット間に隙間、又は扉の段違いになり、仕上げに支障が生じます。
- 施工前に商品名、機種、色、数、寸法などに間違いがないか確認して下さい。

設置後の確認

- 次の事項をしっかり確認して下さい。
- 繰り返し扉を開閉し確実に丁番で固定されているか確認して下さい。
- 引出しを開閉し、ガタつきがないか確認して下さい。
- 取手、丁番などのネジのゆるみがないか確認して下さい。ネジにゆるみがある場合は、手回し  ドライバーで締め付けて下さい。
- 排水トラップの直管配管が確実に取付けられているか確認して下さい。水を流し、排水トラップ・配管部分に水漏れがないか確認して下さい。
- 水を流した後は、シンク内の水滴はきれいに乾拭きして下さい。
- キャビネット間、部材間にガタつきがないか確認して下さい。
- 商品の清掃を行って下さい。

工事後の確認

- 工事終了後も、商品には必要な養生を施して下さい。
- 不要なダンボールや廃材は、排出事業主の指示に従い適切に処理して下さい。
- 水栓やガスの元栓が閉まっている事を確認して下さい。

安全にお使い頂くために

ステンレスシンク

-  必ず実行記号
-  禁止行為記号

-  醤油、塩、濡れた包丁、鍋等の鉄製品を置かないようにして下さい。もらいサビの原因になります。また長時間掃除をしないで使用していると腐食して穴の開く恐れがあります。

-  酸性の洗剤は使用しないで下さい。サビや変色の原因になります。

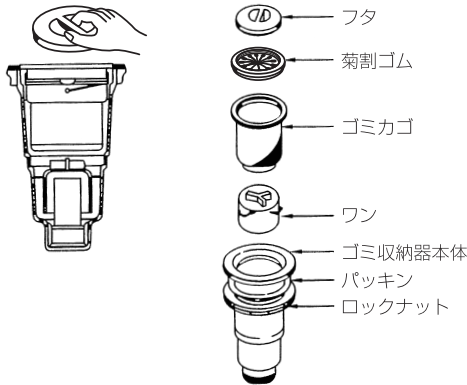
-  酸素系やアルカリ性の洗剤を長時間使用、および放置しないで下さい。サビや変色の原因になります。もし使用する場合は、洗剤の使用上の注意をよく読み、使用後は必ず十分に水で流してください。

-  金属タワシ、ナイロンタワシ、粒子の粗いクレンザー類を使用しないで下さい。表面にキズがつく恐れがあります。

※ステンレスは、普通鋼やアルミニウムに比べてはるかに耐食性に優れておりますが「金や白金と違い、絶対に錆びない金属ではありません」ステンレスが錆びる要因は、塩素イオン(塩分、漂白剤、塩酸、塩素系ヌメリ取剤等)や硫酸酸化物(燃焼排ガス温泉、温泉蒸気、火山灰等)があります。また鉄粉を主とした異種金属の多くはステンレス表面に付着すると「もらい錆」をおこします。そのまま放置すると茶褐色の厚い「錆」に変わっていき除去は容易ではなく、除去出来たとしても表面を元の状態に保つのは困難です。ひどい錆の状態に至るまで放置せず、初期の段階で手入れすることが大切です。

ゴミ収納篋付排水トラップ

- ◆ゴミカゴにためたゴミは、排水の流れを悪くし、半日以上ためると悪臭を発生する恐れがあります。ゴミは、こまめに捨てて下さい。
- ◆ゴミカゴやフタ・密栓・ワン本体は、こまめにお湯か台所中性洗剤で洗って下さい。悪臭の原因になります。
ワンの外し方は、反時計回りに回して下さい。トラップの掃除以外は、必ず装着しておいて下さい。
- ◆密栓、パッキンは多量の熱湯を流した場合や長年の使用で劣化し、水漏れや止水が出来なくなることがあります。早めの交換で対応して下さい。(大型ストレーナー)



包丁差しの使い方

- ◆包丁は水気をよく拭き取って収納してください。
包丁がぬれたまま収納すると、扉や底板が変形や腐食する恐れがあります。
- ◆包丁を収納する時は、包丁の刃が樹脂部にあたらない様に注意して下さい。
- ◆確実に包丁を差し込んで下さい。扉を開閉する時に包丁が落下し思わぬけがをする恐れがあります。
- ◆包丁を差し込んだ場合、包丁差しより刃先が出ないようにして下さい。
けがをする恐れがあります。刃先19cm以内の包丁を使用して下さい。

吊戸棚の収納

吊戸棚や棚板に最大積載荷重以上のものを載せたり、重いものを1ヶ所に集中して載せないで下さい。棚板に載っているものが落ちて、ケガをする恐れがあります。

棚板	最大積載荷重 20kg以下
吊戸棚底板	最大積載荷重 20kg以下